
ジオ・ラボ ネットワーク通信 2014.6 第41号

全国地質調査業協会連合会 ジオ・ラボ ネットワーク事務局：協同組合関西地盤環境研究センター
・北海道土質試験協同組合 ・協同組合土質屋北陸 ・関東土質試験協同組合
・中部土質試験協同組合 ・協同組合関西地盤環境研究センター ・協同組合岡山県土質試験センター
・協同組合島根県土質技術研究センター・協同組合広島県土質試験センター ・宮崎県地質調査業協同組合
なお、記事に関するお問い合わせは各組合へお願いいたします。

ジオ・ラボネットワーク通信第41号を発刊致しました。ジオ・ラボネットワーク会員の情報発信の一手段として本通信を発行しております。

ジオ・ラボネットワークがさらにその存在を高めていくためにも、各種の情報発信が必要と認識しておりますので、積極的な情報発信をお願い致します。

(事務局 中山 義久)

○ジオ・ラボネットワーク経営懇談会開催報告

＊開催日：平成26年6月20日(金)14:00～17:00

＊開催場所：一般社団法人全国地質調査業協会連合会 会議室

＊出席者：全地連3名、各組合出席者15名 合計18名

＊議題：1. H25年度収支報告(案)とサーバー関連報告・H26年度会費

2. ジオ・ラボネットワーク技術者交流会開催(案)

3. 全地連「技術フォーラム」参加状況

4. 展示ブース出展計画(案)

(1) 地盤工学会全国大会 (北九州市)

(2) 全地連「技術フォーラム」(秋田)

5. 研修会・講習会

(1) 補助金事業を活用した技術研修会

(2) 管理職教育に対する提案

6. その他

・「地質調査技術のフロンティア」掲載

・地盤工学会主催技能試験への参加協力

北海道土質試験協同組合

mail to : hsrc@src.or.jp

コンクリートの大型供試体の試験について

当組合では、圧縮試験の1つとしてΦ30cm×h60cmの大型供試体による静弾性係数試験を実施しています。この試験は、台形CSGダムの室内配合試験で用いられています。

台形CSGダムとは、『材料』、『設計』、『施工』の3つの合理化を同時に達成する新しい形式のダムで、堤体材料としてCSG (Cemented Sand and gravel) を用い、表面は耐久性と遮水目的とした保護コンクリートから構成されるダムのことです。CSGは、一般のダムコンクリートと違い、単位セメント量が少なく、粒度もコンクリートでは想定されない範囲が対象となることから、フルサイズ (Gmax=80mm) の材料をそのまま用いて試験を実施する必要があります。

また、CSGは、弾性体とみなせる範囲で用いることから、「弾性体として設計」するので“弾性領域強度”を測定することも必要になります。そのため、Φ30cm×h60cmの大型供試体でも応力-ひずみの関係が求められるように、アムスラー型圧縮試験機(最大荷重=1MN)を改良し対応しています。

今後も、お客様からの特殊なニーズにも迅速に対応できるように取り組んでいきたいと思っております。

(技術部：上原 敏裕)

ジオ・ラボ ネットワーク通信 2014.6 第41号

全国地質調査業協会連合会 ジオ・ラボ ネットワーク事務局：協同組合関西地盤環境研究センター

- ・北海道土質試験協同組合 ・協同組合土質屋北陸 ・関東土質試験協同組合
 - ・中部土質試験協同組合 ・協同組合関西地盤環境研究センター ・協同組合岡山県土質試験センター
 - ・協同組合島根県土質技術研究センター・協同組合広島県土質試験センター ・宮崎県地質調査業協同組合
- なお、記事に関するお問い合わせは各組合へお願いいたします。



大型供試体の作成状況



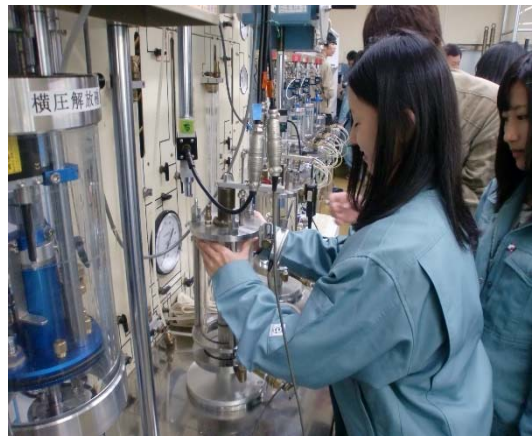
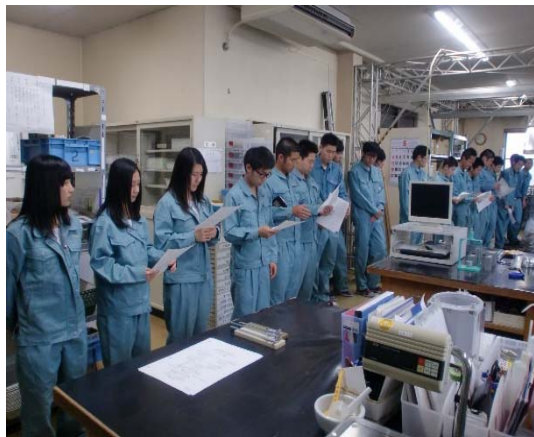
静弾性係数試験の状況

協同組合土質屋北陸

mail to : info@doshitsuya.or.jp

5～6月にかけて研修会が開催されました。

5月と6月に金沢市市立工業・土木科の生徒40名を4回に分けて実施しました。



6月、森林土木協会主催のCPDSポイント研修が実施されました。

実技研修

イ：施工管理試験（安定処理土の一軸圧縮試験、現場密度試験、その他）

ロ：材料試験（締固め、CBR、コーン指数）

ハ：三軸圧縮試験（UU：非圧密非排水セン断）

施工管理に関するQ&A（座学）

施工に関する品質管理 品質管理例 など

研修室もリニューアルされて、みなさん快適に研修を受けていただいております。

ジオ・ラボ ネットワーク通信 2014.6 第41号

全国地質調査業協会連合会 ジオ・ラボ ネットワーク事務局：協同組合関西地盤環境研究センター

- ・北海道土質試験協同組合 ・協同組合土質屋北陸 ・関東土質試験協同組合
 - ・中部土質試験協同組合 ・協同組合関西地盤環境研究センター ・協同組合岡山県土質試験センター
 - ・協同組合島根県土質技術研究センター・協同組合広島県土質試験センター ・宮崎県地質調査業協同組合
- なお、記事に関するお問い合わせは各組合へお願いいたします。



関東土質試験協同組合

mail to : uketsuke@kstc.or.jp

※建物耐震補強、リニューアル工事が完了しました。

4月から工事が始まり2か月半ほどかかりましたが、6月20日で完成しました。工事期間中は何かとご迷惑をかけましたが、写真のように大変身しました。皆様の貴重な財産ですので、大切に、いつまでも綺麗に役職員一同使用してまいります。



(工事後)



(工事前)

※新入職員のご紹介

6月から期待の2名の新人が技術部に配属になりました。これで技術部の人員は10名となり、7月からもう1名採用予定です。建物耐震補強、リニューアル工事も完成し、設備、人員両面から皆様のご要望に応えられるよう体制を整えてまいります。



はじめまして。このたび試験組合に入職しました
高砂 英郎 (たかさご ひでお) と申します。

土質試験の仕事は初めてなので分からない事がたくさんありますが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしく
お願い致します。

趣味・特技:サイクリング(ロード)旅行、スキー、料理
神奈川県出身 38歳
東京農業大学農学部造園学科卒 (H12)

ジオ・ラボ ネットワーク通信 2014.6 第41号

全国地質調査業協会連合会 ジオ・ラボ ネットワーク事務局：協同組合関西地盤環境研究センター

- ・北海道士質試験協同組合 ・協同組合土質屋北陸 ・関東土質試験協同組合
 - ・中部土質試験協同組合 ・協同組合関西地盤環境研究センター ・協同組合岡山県土質試験センター
 - ・協同組合島根県土質技術研究センター・協同組合広島県土質試験センター ・宮崎県地質調査業協同組合
- なお、記事に関するお問い合わせは各組合へお願いいたします。



今年の6月2日より配属となりました、倉ヶ谷彩地(くらがや・さいち)と申します。正規職員という立場は初めてのため学ぶことは多くありますが、この組合の戦力となるように今後とも精進いたしますので、ご指導の程よろしく申し上げます。

趣味・特技：管弦楽演奏(フロアマーチングも経験あり)
東京都出身 25歳
長岡技術科学大学工学研究科院卒 (H25)

(総務課：石川 恵美)

中部土質試験協同組合

mail to : info@geolabo-chubu.com

(1) 第35回通常総会と創立35周年記念懇親会が開催されました。

平成26年5月26日(月)に、第35回通常総会を開催しました。平成25年度事業報告、決算報告書、剰余金処分(案)および平成26年度事業計画並びに収支予算(案)が満場一致で承認されました。併せて、任期満了に伴う役員改選が行われ、坪田理事長の再選が決まるとともに伊藤武夫理事が退任され、相談役に就任されることとなりました。このことで、従来の役員に加えて、新たに伊藤重和理事が就任されました。

継続して開催されました創立35周年記念懇親会には、来賓の地盤工学会中部支部長の中野正樹名大教授を始め多くの来賓・関係者が多数参加されました。ここでは、組合創設以来、役員として経営に携わってこられた、伊藤理事(東邦地水(株)会長)が今回の総会を持って退任されることとなり、その功績を称える表彰状の贈呈が行われ、継続して植下先生の乾杯で賑やかに懇親会が開催されました。



(第35回通常総会：ホテル NAGOYA ガーデンパレス)



(伊藤理事への永年にわたる功績を称える表彰状の贈呈)

(2) 地盤調査ボーリング作業～室内土質試験見学会が開催されました。

平成26年度の標記見学会が、主催：公益社団法人地盤工学会中部支部、共催：中部地質調査業協会・中部土質試験協同組合で、多くの参加者を得て5月16日(金)に開催されました。

当日は、学生会員を含む学会会員・中部地質調査業協会会員、その他一般から76名の参加があり大変盛況に終わることができました。

全国地質調査業協会連合会 ジオ・ラボ ネットワーク事務局：協同組合関西地盤環境研究センター

- ・北海道土質試験協同組合
 - ・協同組合土質屋北陸
 - ・関東土質試験協同組合
 - ・中部土質試験協同組合
 - ・協同組合関西地盤環境研究センター
 - ・協同組合岡山県土質試験センター
 - ・協同組合島根県土質技術研究センター
 - ・協同組合広島県土質試験センター
 - ・宮崎県地質調査業協同組合
- なお、記事に関するお問い合わせは各組合へお願いいたします。

開会に先立ち、地盤工学会中部支部のセミナー部会長を務める 張 鋒名工大教授 が主催者を代表して、「ボーリング作業・物理探査、土質試験は教科書では習得しにくい。この機会に真剣に取り組んで欲しい」との挨拶がなされました。

見学会では、ボーリング作業の実演現場における機材の説明を受けるとともに、原位置試験・サンプリングの実際を見学しました。併せて、物理探査(弾性波探査・電気探査・PS 検層など)も見学することができました。

土質試験を見学する後半の部では、76名を3パーティに区分して、各参加者が同一試験所内でバッテイングしないように配慮されたプログラムによって見学が行われました。

参加者のアンケート結果を拝見すると、調査作業や土質試験の現場を実際に見学できたことに対して、高い評価が得られていることが判りました。次年度以降も継続して実施される場合には、当組合もご協力していきたいと考えています。



(ボーリング作業の解説状況)



(試験器具を用いた圧密試験の解説(岩田主任))

(3) 地質調査技士受験者のための自主勉強会を実施しました。

今期受験する2名の受験者を含む組合職員への地質調査技士受験対策として自主的に勉強会を開催しました。中部地質調査業協会講習会における講師経験を有する企画・業務部の江上尊憲部長にお願いして、過去問から引用した手作りのテキストを用いて、6月10日(火)および17日(火)の2回連続で問題に対する回答について、詳細に解説を実施しました。勉強会には今期の受験者のみならず、自己学習ノタメニ大半の技術職員が参加した勉強会となりました。

内容的には、地質調査技士の択一選択問題の各分野における出題数、合格するための採点状況などの分析をはじめ、記述式問題(経験問題)の対策等が主要な内容で構成されています。

地質調査技士に限らず、こうした資格を取得するために各人が多種多様な努力をするわけですが、この努力が「血となり肉となり」、個人が成長する糧とな



(地質調査技士受験のための自主勉強会状況)

ジオ・ラボ ネットワーク通信 2014.6 第41号

全国地質調査業協会連合会 ジオ・ラボ ネットワーク事務局：協同組合関西地盤環境研究センター

・北海道土質試験協同組合 ・協同組合土質屋北陸 ・関東土質試験協同組合
・中部土質試験協同組合 ・協同組合関西地盤環境研究センター ・協同組合岡山県土質試験センター
・協同組合島根県土質技術研究センター・協同組合広島県土質試験センター ・宮崎県地質調査業協同組合
なお、記事に関するお問い合わせは各組合へお願いいたします。

ると考えられます。これらにより、今期は少なくとも1名の資格取得者が出るのではないかと期待しています。

(文責：坪田 邦治)

協同組合 関西地盤環境研究センター

mail to : tech@ks-dosoti.or.jp

梅雨明けも間近になりましたが、皆様お元気にお過ごしでしょうか。湿度が高い時期はエアコンを入れてさっぱり過ごしたいですが、エアコンのかけ過ぎで体調を崩す人も多いのではないのでしょうか。かけ過ぎに注意してこの時期を元気に乗り切りましょう。

さて、さる6月5日～6日にかけてジオ・ラボネットワークの研修会を、関西の組合で開催致しました。各組合から多くの参加を頂きありがとうございました。このような催しは今回が最初でもあり、十分に行き届かないところもありましたが、皆様のご助力により、無事成功の内に終えることができました。ありがとうございました。

ジオ・ラボネットワーク研修会は、土質試験及び地盤調査の技術の向上をテーマに、参加者による一斉試験（ふるい分析、液性限界試験、塑性限界試験）を行い各組合の手法の違いや特徴を披露して頂きました。また、その試験結果を基に方法や効率化の検証を行いました。検証では、各先生方のご意見、指導、講演を頂き、より高品質で信頼性の高いデータを提供するための手がかかりとなったものと思います。

この研修会を利用して、技術者の在り方や連携強化の必要性について認識を深めるとともに、問題意識の共有を図り、相互の技術協力などを実践していきたいと思えます。まずは気軽に参加してもらい、交流の機会を広め、定例化に繋げたいものです。

次回開催は、平成26年9月4日～9月5日（場所は関西の組合）を予定しております。ふるってご参加ください、よろしくお願い致します。

(文責：萩家 正次)



協同組合 広島県土質試験センター

mail to : office@hiroshima-soil.jp

(1) 第32回通常総会が開催されました

平成26年5月21日、ひろしま国際ホテルにおいて理事・組合員13名（組合員数16社）が出席して開催されました。大畑理事長が議長に就任し、審議の結果下記の議案などが承認されました。

- ・平成25年度事業報告及び決算の承認の件
- ・平成26年度事業計画及び予算案の承認の件

ジオ・ラボ ネットワーク通信 2014.6 第41号

全国地質調査業協会連合会 ジオ・ラボ ネットワーク事務局：協同組合関西地盤環境研究センター

・北海道土質試験協同組合 ・協同組合土質屋北陸 ・関東土質試験協同組合
・中部土質試験協同組合 ・協同組合関西地盤環境研究センター ・協同組合岡山県土質試験センター
・協同組合島根県土質技術研究センター・協同組合広島県土質試験センター ・宮崎県地質調査業協同組合
なお、記事に関するお問い合わせは各組合へお願いいたします。

平成 19 年度の売上をピークとして、5 年間減少傾向を続けていましたが、平成 25 年度の年間売上は 4,023 万円と前年度より 1,227 万円の増となりました。平成 26 年度の売上目標は 3,400 万円です。

(2) ジオ・ラボネットワーク研修会へ参加しました

平成 26 年 6 月 5 日～6 日に協同組合関西地盤環境研究センターで行われた研修会へ中原、村田の 2 名が参加しました。

同センターの豊富な技術陣による講習会の受講と、一斉試験での液性限界、塑性限界、フルイ試験に挑戦しました。ベテランの中原は問題なく試験をこなしましたが、この 4 月入社の子田は苦戦しました。特に液性限界試験にてこずり、他の受講者が懇親会へ向かった後も中山センター長に励まされながらひとり黙々と試験を続けました。結果は・・・

懇親会ではたかが液性限界、されど液性限界の話題で盛り上がり、土性の違いによる加水の難しさ、試料をヘラでシャーレに乗せるテクニック、試料の練り混ぜ方法など話題は尽きませんでした。

その後、液性限界試験のテクニックを身に着けるべく日々努力しています。講習会で試験結果の精度を上げるためには、本人の“心構え”が重要というのはあまりにも基本的な結論ですが「なるほど」と合点がいきました。

今後もこのような研修会に参加することで、個人的にもネットワーク全体の職員にとっても技能の向上を図っていくことはとても大切なことだと思いました。

(文責：村田 明)